

## 2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次/1年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/後学期/後学期 : /Second term/Second term
分類/Category	//工芸科学教養科目 : //Science and Technology Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月5 : /Mon.5

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10121503			
科目番号 /Course Number	10160137			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	京都の農林業 : Agriculture and Forestry in Kyoto			
担当教員名 / Instructor(s)	/(中村 貴子)/他 : /NAKAMURA Takako/etc.			
その他/Other	インターンシップ実施 科目 /Internship	国際科学技術コース提供 科目 /IGP	PBL 実施科目 /Project Based Learning	DX 活用科目 /ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による 科目 /Practical Teacher	○	京都府職員のゲストスピーカーによる講義もある	
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 /Objectives and Outline of the Course	
日	わが国の農林業の概要とそこにおける京都の農林業の特徴とについて、リレー方式で概説する。一千年以上もの間、都であった歴史的京都ゆえに、伝統的に蓄積されてきた技術と文化に基づく農林業と、新しい技術と生産方式の下で再編成される現代の農林業との2つの側面を明らかにして、長期的視点でわが国と京都の農林業を見つめ直すための教養を身につける講義である。京都の作物、流通、米、野菜・花卉、果樹、茶、木材産業、和紙、畜産などについて講義する。
英	

学習の到達目標 /Learning Objectives	
日	京都府内における農業関連分野の特徴と課題についての知識を高める。
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 /Course Plan		
No.	項目 Topics	内容 Content

1	日	第 1 回	ガイダンス
	英		
2	日	第 2 回	京都における地産地消
	英		
3	日	第 3 回	京都の米・酒米
	英		
4	日	第 4 回	わが国の野菜生産
	英		
5	日	第 5 回	京都の野菜生産と伝統野菜
	英		
6	日	第 6 回	京都の花弁
	英		
7	日	第 7 回	野菜の DNA 解析
	英		
8	日	第 8 回	宇治茶の歴史と品質の特徴
	英		
9	日	第 9 回	わが国の果樹生産
	英		
10	日	第 10 回	京都の農林業（果樹栽培と果実に関する試験課題）
	英		
11	日	第 11 回	京都の和紙
	英		
12	日	第 12 回	木材利用と環境保全
	英		
13	日	第 13 回	京都の木材産業
	英		
14	日	第 14 回	京都府内における新規就農者の実態を知る
	英		
15	日	第 15 回	京都の畜産の秘密・魅力と試験研究の取り組み
	英		

## 履修条件 /Prerequisite(s)

日	京都の農林業や食に関する関心が高いこと
英	

## 授業時間外学習（予習・復習等） /Required study time, Preparation and review

日	受講した講義内容については、再度、内容を整理すること。質問や内容確認の必要が生じた場合は、講義担当教員に質問すること。  本講義に対しては、67.5 時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。
英	

## 教科書／参考書 /Textbooks/Reference Books

日	適宜講義時間内に配布する資料等を用いる。
英	

## 成績評価の方法及び基準 /Grading Policy

日	各回の講師によるレポートや小テストと主体的な授業参加を総合的に評価
英	

## 留意事項等 /Point to consider

日	
---	--

英	
---	--